
Eco Life

eita

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

E c o L i f e

【Nコード】

N 1 6 0 7 M

【作者名】

e i t a

【あらすじ】

幸せな家庭を襲うミステリアスな謎

突然の知らせ

突然の知らせ。私は全身が硬直し、頭が真っ白になった。どうして？警察からの連絡が来たのは小1時間ほど前の事でした。愛する幸弘が無くなったとの知らせ。それも愛人との心中と白石警察部は話した。「大変お気の毒ですが、身元確認のためすぐに甘五警察署にお越し頂けませんか？まだ、旦那さんと決まったわけじゃないですが・
・遺留品の免許書に堀川幸弘と書かれておりまして、電話させて頂きました。被害者は女性とラブホテルで亡くなっており、首より下は二人ともありません。あるのは衣類、財布、靴です。御心境お察しますが、宜しくお願い致します。」

信じられない。なぜあの幸弘がこんなことに。何かの間違いだわきつと。私は恐る恐る、自動車に乗り込み、甘五警察署に向かった。

警察署で最愛の人との対面

堀川理恵さんですね？ 恰幅の良い50代の人の良さそうな警官が迎えた。

先ほど電話致しました白石です。早速ですが、行きましょう。

そして霊安室に向かった。行く途中二人とも無言のなか、冷えた廊下にコツコツと音がこだました。

ガチャっ、ドアを開け、白石警部はどうぞと手で私に入るよう促した。

私は躊躇した。胸の高まる鼓動が鳴りやまない。

「幸弘お願い違っていて・・・」

霊安室に入るとそこには2人の体は無く、40センチの木の箱に白い布が二つ掛けてあり、同じように二つのベッドに置いてあった。

「怖い、恐怖と不安で倒れそうだ」

白石警部はそんな私を察したのか奥さん大丈夫ですかと、肩を貸してくれた。

そして、ベッドの前まで行き、白い布が掛けられた箱を見下ろした。白石警部は「奥さん取りますよ」と言い、布を取った。

私は目を背けた。そしてゆっくりと顔を見た。「あ、あ、あー」
そのまま意識を無くし、それ以降の事は覚えていない。

気がつくと警察署のソファに寝ていた。
辺りには誰もいない。外を見ると暗い。何時だろう？壁にかかった
時計を見ると23..50分だった。あれから約2時間も気絶してい
たのか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1607m/>

Eco Life

2010年10月12日08時54分発行